

2025年度 すくわくプログラム ポピンズナーサリースクール馬込 【11月】活動報告書

【活動テーマ/テーマ設定背景】

- テーマ：世界の建物を知ろう～国ごとの文化の違いに気付く
- 設定背景：お子様が"世界には様々な暮らしがある"ことに興味を持ち、違いを楽しみながら多文化への理解を深めてほしいと考え、建物をテーマに設定した。

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

- ・世界の図鑑、世界の建物が載った絵本
- ・世界各国の建物の写真
- ・白い画用紙、クレヨン
- ・グループごとに話し合えるテーブル配置
- ・写真を見ながら話し合えるよう、資料を掲示

【活動内容/お子さまの声や姿や保育者との関わり】

世界の建物について知った後、グループに分かれて気になる国をひとつに絞る→建物の写真を見ながら日本との違いを話し合う→話し合いを踏まえ、白い画用紙に建物を描いてみる→グループ内で作品を見せ合い、工夫した点や気づきを発表する

- ・お子様たちは世界の建物の写真を見ながら、国ごとに違う色や形、建物の立つ場所に興味を広げていた。グループで話し合い、「このくにはみずのうえにいえがあるよ」「こっちはカラフルないえがいっぱいある」などと、気づきや発見を自然と伝え合っていた。
- ・そのうえで国を一つに絞り、特徴を捉えながらクレヨンで建物を描いていた。国を一つに絞る際は、意見が衝突する場面も見られたが、保育者がそれぞれの国の違いを伝えると「こっちでもいいかも」と納得して作業に取り組んでいた。
- ・完成後、「おなじくになのにちょっとちがうね」「わたしはここをがんばったよ」と作品を通して交流していた。



【振り返りをふまえた気づき】

- ・同じ写真を見ても、着目点や感じたことがお子様によって異なり、多様な視点の面白さを改めて感じた。
- ・国の選択では、理由を言葉で伝え合う中で、自分の意見を出したり相手の考えを受け入れたり、話し合いの力が育っていることに気付いた。
- ・建物の違いを"おもしろい"と感じるお子様が多く、文化の違いを否定ではなく好奇心として受け止められる柔軟さがあると感じた。
- ・今後は建物だけでなく、食べ物・衣服・音楽・遊びなど、お子様が興味を広げられるものへテーマを発展させられるのではないかと感じた。